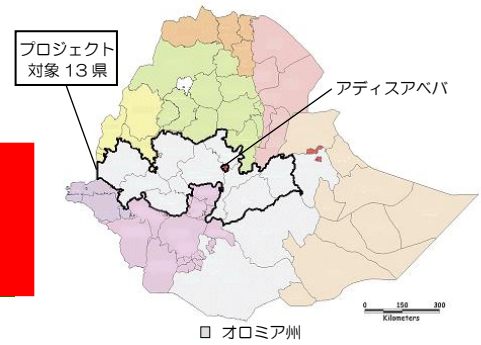




Ho! ManaBUしんぶん

2011.10.6 No.35

子どもの笑顔に会うために！



OEB 主体計画の発表と共有

～ 第5回合同運営委員会会合 ～

Ho! ManaBUプロジェクトでは、9月20日に、第5回合同運営委員会（JSC会合）を首都アジス・アベバで開催しました。JSC会合は、プロジェクトの活動報告や、今後の方向性を関係者で共有・議論することが目的ですが、特に今回のJSC会合では、オロミア州教育局（OEB）によるHo! ManaBU研修の全州普及（OEB主体計画）をOEBの担当者が発表し、参加者と共有することが大きな目的でした。

エチオピアの新年明け、その上、新学期が始まったばかりという時期の開催で、エチオピア側参加者の多くが学校登録への対応や始業式への出席などで忙しく、会合前日まで本当に開催できるのか不安でしたが、蓋（ふた）を開けてみれば、大勢の参加者が集まり、実のある議論が交わされ、とても意義のある会合となりました。

会合は、OEB主体計画実行委員会の主要メンバーである教師教育課のゲタチャー氏の軽妙な司会で始まり、まず、急用で欠席となったダバ局長に代わってマルガ副局長から開会の辞が述べられました。マルガ副局長は、プロジェクトのこれまでの成果をたたえ、OEB主体計画を通じたHo! ManaBU研修の全州展開について熱く語ってくれました。続いて、プロジェクトから、これまでの進捗報告と今後の活動計画を発表し、これからまさに始まるOEB主体計画の概要が説明されました。これを受け、OEBのガブリエル・ミハエル計画課長とゲタチャー氏から、OEB主体計画についてより詳細な説明が行なわれました。2人の堂々とした発表を見て、今後、彼らが核となって積極的にOEB主体計画を推進して欲しいと強く感じました。休憩の後、参加者を巻き込んで、Ho! ManaBU研修のデモン



OEB 主体計画を発表するガブリエル・ミハエル計画課長(右)と教師教育課のゲタチャー氏(写真上)。Ho! ManaBU研修のデモを楽しむ参加者(写真下)。

した。Ho! ManaBU研修を初めて体験する参加者も多く、「Ho! ManaBU研修は、ゲームを通して実際に中途退学の悔しさを味わうことができ、素晴らしい。」などのコメントも出され、Ho! ManaBU研修の楽しさと有効性を参加者に肌で感じてもらえたようでした。

質疑応答の場では、OEB主体計画実施にあたっての具体的な予算案の提示やHo! ManaBU研修のモニタリングに関するOEBから県教育事務所への指導の必要性などが指摘されました。これらに対して、ガブリエル・ミハエル氏とゲタチャー氏から、時間的な制約で発表はできなかったが、予算案はすでにできあがっていること、また、OEBの責任でモニタリングを



開会の辞を述べる OEB マルガ副局長。この日も超多忙スケジュールの合間を縫って参加してくれました。

実施していくとの回答が示されました。さらに、所用で途中退席したマルガ副局長からは、研修教材配布対象機関やファシリテーター研修の実施回数、OEB主体計画の実行体制などについて会場退出前にプロジェクト側に申し送りがされ、これらについても参加者に共有されました。最後に、JICAエチオピア事務所の大田孝治所長から閉会の辞が述べられました。大田所長は、昨年3月の着任直後にHo! ManaBU研修を見て以来のHo! ManaBUファン(!)とのことで、「将来的にはエチオピア全土のみならず、アフリカ、ひいては世界にHo! ManaBU研修を普及させたいと考えている。」という熱いメッセージが参加者に送られました。

今回のJSC会合では、従来のJSCメンバー（連邦、州、県レベルのプロジェクト関係者）だけでなくOEB主体計画実行委員会メンバーはもちろん、一般のOEB職員にも参加してもらった結果、OEB主体計画をOEB内にも広く周知できました。また、OEB側から自分たちの責任下でOEB主体計画を実施することが明言され、参加者間で共有されたという点において、非常に大きな意義があった会合であったと思います。OEB主体計画実施までの道程は、これからも山あり谷ありですが、今回のJSC会合において参加者が共有した思いが、OEB主体計画を実施する上で大きな支えになることを願ってやみません。

*Ho! はオロモ語で Hoggansa（運営）の最初の二文字、ManaBU は Mana Barnoota Ummataa（コミュニティの学び舎）の略で、本プロジェクトが支援する地或社会に根ざした小学校運営のことです。

意識改革とリーダーシップが鍵！

～ ダバ局長のODA インタビュー～

Ho! ManaBU では、2010年9月からオロミア州の教育者を対象としたオロミア語の投稿雑誌ODA(オダ)を発行しています。11月発行予定の第3号の巻頭記事は、オロミア州教育局(OEB)のダバ局長へのインタビューです。そこで、今月号のしんぶんでは、ODAに先立ち、ダイジェスト版を皆さんにご紹介します。

- OEBとして力を入れている分野は何ですか？

第1の重点項目は、学校レベルでの指導者の行動変容です。OEBでは、校長やクラスター・リソース・センター(CRC)担当官だけでなく、PTA、保護者、そして地域住民など学校運営にかかわるすべての人たちを対象とした意識改革研修の実施を計画しています。第2は教師の質の向上で、教員の意識改革や継続的な能力向上を目指すプログラムを実施しています。3番目の重点項目は学校建設です。今後5年間で「すべての市民に教育を」という目標を達成させたいと思っています。

- 5年後のオロミア州やエチオピアの教育はどのようになっているのでしょうか？

私たちの国では、産業や農業など、それぞれの開発計画がありますが、これらの分野での発展には、まずは教育開発が不可欠です。教育開発なくして、政治、経済、社会開発はありえません。

現在、オロミア州には182の後期中学校(11-12年生)がありますが、今後5年間で、304のすべての郡に設置したいと考えています。前期中学校(9-10年生)は、各郡



超多忙のダバ局長。インタビューはアポイントを取ってから、数週間後にやっと実現しました。

最低3校は設置することを目指しています(注:2010年度は全304郡で275校)。小学校については、通学時間をもう少し短くするべきだと思っています。通学距離は、3キロ程度、遠くてもせいぜい5キロが望ましいでしょう。そして、教師教育については量・質両面でのスケールアップも大切です。

- ミレニアム目標達成への課題は何でしょう？

大きな課題は3つあると思います。まず、人々の教育に対する態度です。人によっては、子どもを学校に行かせることをよしとしない人がいます。また、自分の子どもを農業や商売に従事させて、学校に行かせよ

うとしない親もいます。私たちは、このような人たちの考え方や態度を変えるところから始めなければなりません。2番目の課題は、州、県、郡、学校レベルすべてを通じての運営能力強化、3番目は教材の不足です。

- ダバ局長は、11月から3週間の研修を日本で受けます。研修には何を期待していますか？

特にリーダーシップについて学びたいです。学校レベルでの運営だけでなく、日本の指導者たちがどのように自分たちの国を統率し、どのように発展させたのか知りたいと思います。また、教育については特に理科教育の分野でのリーダーとしての取り組みを学びたいです。地域連携もぜひ学びたい分野のひとつです。

- ありがとうございました。

ダバ・ダバ局長のプロフィール: 大学卒業後、約20年、一貫して行政官として政府機関に勤務。郡、県事務所での勤務を経た後、ここ8年ほどは、州レベルの能力開発局などの各種セクター局の局長を歴任。2011年3月から現職。

<余談ですが...>

昨年9月のODA第1号では、当時のOEB局長であったダレジェ氏のインタビュー、そして今年2月発行の第2号ではダレジェ局長の後任のエシェトゥ氏へのインタビューと、発刊から局長インタビューが続いています。実は...ODAにはインタビューするたびに局長が変わるという恐ろしいジンクスがあるということは皆さんはお気づきでしょうか?3度目の正直、ダバ局長が異動せず、OEBにずっと在籍されることをプロジェクトチームは切に祈っています...

教材の山が消える日を夢見て...

～ OEB 主体計画支援状況アップデート～

Ho! ManaBU プロジェクトでは、OEB 主体計画実施に向けて、いろいろな支援を進めています。研修教材の業者への注文、納入もそのひとつで、9月30日までに、中途退学と女子教育改善の研修教材770セットと研修マニュアル約2400冊が、プロジェクトオフィスにどっさりとな入されました。現在、教材の中味をひとつひとつ点検し、教材バッグにマニュアルを入れる作業をしています。この教材セットの山積みが晴れて



オフィスから消えてなくなる日がOEB 主体計画始まりの日...

がんばって支援します!